

情報処理推進機構理事長に 就任して



独立行政法人情報処理推進機構 理事長

富田 達夫

この度情報処理推進機構の理事長を拝命いたしました。IPAはソフトウェア産業にとどまらず、IT社会全体の発展に取り組んでいる、日本のIT社会推進のための中心的な機関です。大変な重責となりますが、私のこれまでの産業界や学界での経験を活かしながら全力で職責を果たしていきたいと思っております。

SEC 活動への期待

いま世の中では、様々な機器がインターネットにつながり、情報をやりとりするIoT化が進んでいます。このような世界においては、これまで結びつきのなかった機器やシステムなどが互いにつながり連携することで、新しい価値やサービスが創造され、誰もが手軽にその恩恵を得ることができるようになります。その反面、ひとたび機器に障害や不具合が発生するとその影響まで他の機器に伝搬して被害が大きくなってしまおうという懸念もあり、これまで以上に信頼性・安全性の確保が求められています。

このようなIoT化が進む世の中で安心・安全な生活を送れるよう、IPA技術本部ソフトウェア高信頼化センター（SEC）では、情報機器やシステムの“信頼性（セーフティ）”向上への取り組み、また、つながることを考慮した“セキュリティ”向上への取り組みなど、様々な面から、国民の皆様へ安心・安全をお届けするための活動を行っています。様々なものやサービスがつながる動きは今後ますます進むと考えられ、SECの役割は更に重要なものになると確信しています。

IoT時代に向けて

あらゆるものがソフトウェアで制御されて動いてい

ます。それぞれの製品やサービスの機能・性能の向上に伴い、ソフトウェアの大規模化・複雑化が進むと共に、ビジネス面では開発期間の更なる短期化が求められています。こうした状況を踏まえ、今後はより一層、エンジニアの活躍の場は広がっていくと考えます。しかしながら、大学では情報分野の学生離れも目に付き、大変危惧される所です。あまりにも身近になったITは、もはや研究の対象ではなく、コモディティ化したツールと受け止められ、また、いわゆる7K問題のようにエンジニアの労働環境に悪いイメージを持ってしまっていることも原因なのかもしれません。しかし、このIoT化の流れは、第4次産業革命とも呼ばれるように世の中を大きく変え得るエポックであり、情報処理技術の進展なくしてはなし得ないものです。情報処理技術の進展が自ら作り出した課題も含め、更に取り組む研究テーマは幅広くあります。また、このIoT時代に新たなビジネスをITを活用しながら創っていくためのソフトウェア開発には大きな可能性が広がっています。SECでは、未来の技術や社会を見据えつつ、産業界と学界の知見を結集して、社会課題の解決や経済成長に貢献する取り組みを加速させます。SECの活動を通じて情報分野におけるエンジニアの魅力ある姿を伝えたいと思っております。

IPAでは、SECの活動と共に、情報セキュリティ、人材育成などの業務と合わせて、健全な情報社会の発展に尽力していきたいと考えております。

今後も皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。